

やまがた農の匠

～令和3年度グッドハーベストコンクール県知事賞のトップ技術～

大豆の部（団体）

河北町 株式会社まきの農園



代表の牧野聡氏 培土時の葉面散布（追肥）の様子

品種 「タチュタカ」

収量 343.7kg/10a

経営面積 24.4ha、うち大豆 7.6ha

Point きめ細かな管理で高収量を確保！

多収技術の肝

- ・土づくり、初期生育促進のために鶏糞を活用している。
- ・大豆の生育に合わせて、培土時に葉面散布で追肥を実践している。
- ・発芽率を高めるため、アップカットロータリーを使用し碎土率向上を図っている。
- ・ほ場の団地化を行い、排水効率と管理作業効率の向上を図っている。
- ・雑草対策や連作障害回避のため、自身の経営面積の中でブロックローテーションを行っている。
- ・複数の品種を組み合わせて収穫作業の集中を回避し、各品種の適期刈取りを行い品質低下を防止している。
- ・開花期前後は、特に土壌の乾燥に注意をはらい、乾燥が著しい場合は畦間かん水を実施している。
- ・地域全体の大豆生産発展のため、地域農家とともに販路を広げ、契約栽培を拡大している。

そばの部（個人）

尾花沢市 高橋 良一 氏



収穫間近の「最上早生」

品種 「最上早生」

収量 175.2kg/10a

経営面積 44ha、うちそば 40ha

Point 適期播種、排水対策の徹底で収量確保！

多収技術の肝

- ・大型トラクターを使った作業（雑草すき込み、耕起、播種）で時間短縮を図り、広い作付面積でも適期播種を行っている。
- ・積極的に活用している遊休農地では、明渠施工で排水対策を徹底している。
- ・生育量を確保し、子実の充実を図るため、ほ場毎の地力を考慮した施肥（牛糞堆肥と化成肥料の組み合わせ）を行っている。また、全面積を条播栽培し、ほ場全体の出芽・生育の揃いを良くしている。
- ・雑草対策として耕起後の速やかな播種と通常よりも狭めた条間（10 cm）で雑草の発生を抑制している。
- ・所属する尾花沢市そば生産振興協議会では、採種・選別した良質な種子を供給し、地域全体で高品質なそば生産に取り組んでいる。

そばの部（団体）

庄内町 松の木生産組合



代表の小林喜信氏



開花期のほ場

品種 「でわかおり」

収量 134.5kg/10a

経営面積 14.0ha、うちそば 4.1ha

Point 鳥獣被害対策と土づくりで高収量を実現！

多収技術の肝

- ・ほ場周辺に電気柵を設置する等の鳥獣被害対策を実施することで、収量確保につなげている。
- ・かき殻石灰を連用するなど、圃場の土づくりに努めている。
- ・ほ場周辺に明渠を設置し、排水対策を徹底している。
- ・ほ場の集約化と共同作業により、低コスト生産に努めている。

飼料用米の部（個人）

酒田市 佐々木 隆 氏



きれいに穂がそろったほ場

品種 「ふくひびき」

収量 874.0kg/10a

経営面積 572.8ha、うち飼料用米 148.1a

Point 初期生育の確保と穂肥判断で安定多収！

多収技術の肝

- ・毎年、穂肥ができる稲姿目指し、初期生育の確保と適期での作溝、中干しを実施している。
- ・今年は初期から生育が良好で、計画どおりに適期に追肥できたことで、収量向上につながった。
- ・大豆との輪作体系を取り入れており、大豆後作による基肥の減肥や雑草の発生減を図っている。また、特別栽培米並の防除による農薬費の削減、尿素の単肥利用による肥料費の削減を行い、コスト低減に努めている。

飼料用米の部（団体）

酒田市 農事組合法人安久里うえだ



安久里うえだの皆さん 収穫間近の「ふくひびき」

品種 「ふくひびき」

収量 789.0kg/10a

経営面積 57.6ha、うち飼料用米 19.1ha

Point 法人化で効率アップ！丁寧な水管理で安定収量を実現！

多収技術の肝

- ・春作業を効率的に行うために、飼料用米はすべて一発肥料、施肥量は窒素成分で8kg/10aに統一している。また、倒伏防止と受光態勢の良化のために50株/坪のやや疎植栽培を行っている。
- ・水管理は有効茎を確保するまでは特にきめ細かに実施し、初期生育を確保している。中干し、作溝作業は6/25には開始し、登熟力のある根づくりと地耐力をつけ、登熟期の水管理を行いやすいよう取り組んでいる。
- ・大豆との輪作体系を取り入れており、大豆後作による基肥の減肥や雑草の発生減を図っている。また、特別栽培米並の防除を実施し農薬費を削減することでコスト低減に努めている。